

# みどりの食料システム戦略

背景と現状

みどり戦略とは

・伊藤 沙智（苫前町 酪農家）

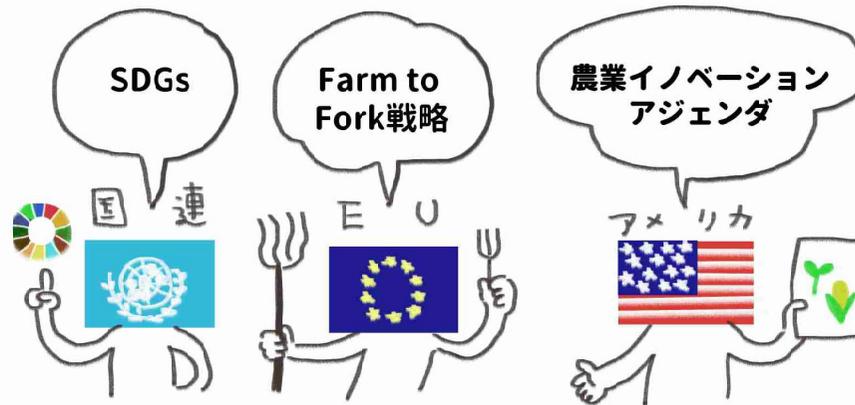
## 一次産業は…

高齢化などで  
どんどん生産者が  
少なくなっている。



## 国際的な動きは…

諸外国でも農業と環境に関わる戦略が作られている



## 地球は…

気候変動や  
大規模自然災害などの問題



このままでは地球で永遠に暮らして行くことは出来なさそう…！？

これらの問題や世界情勢を受け、

日本も新たな政策方針を作ろう！というわけです。

持続可能な食料システムを構築するために

2050年までに達成したい目標を決めました！

それが **みどり戦略** です。

なるべく  
環境負荷なく！

新しい技術も  
使いつつ

ムリ・ムダ  
がなく

合理的に！

持続可能を  
目指そう！



「食料システム」は調達から生産、加工・流通、消費までの一連のつながりのこと

# みどりの食料システム戦略

2050年までの  
目標！



排出ゼロ  
農林水産業の  
CO2ゼロエミッション化  
排出



低リスク  
農薬  
への転換



化学肥料  
化学農薬  
使用量  
低減



100万haに拡大  
有機農業面積  
→化学農薬など使用禁止されている資材を使わない



食品製造業の自動化と  
労働生産性を3割向上  
(2030年)



持続可能性  
に配慮した輸入原材料の調達  
(2030年)  
期限なく続けられそうかな



林業用苗木の  
9割を  
エリートツリー  
に  
成長や材質などがより優れた木



ニホンウナギ・クロマグロ  
人工種苗比率100%  
→天然資源に負荷も  
かけない養殖



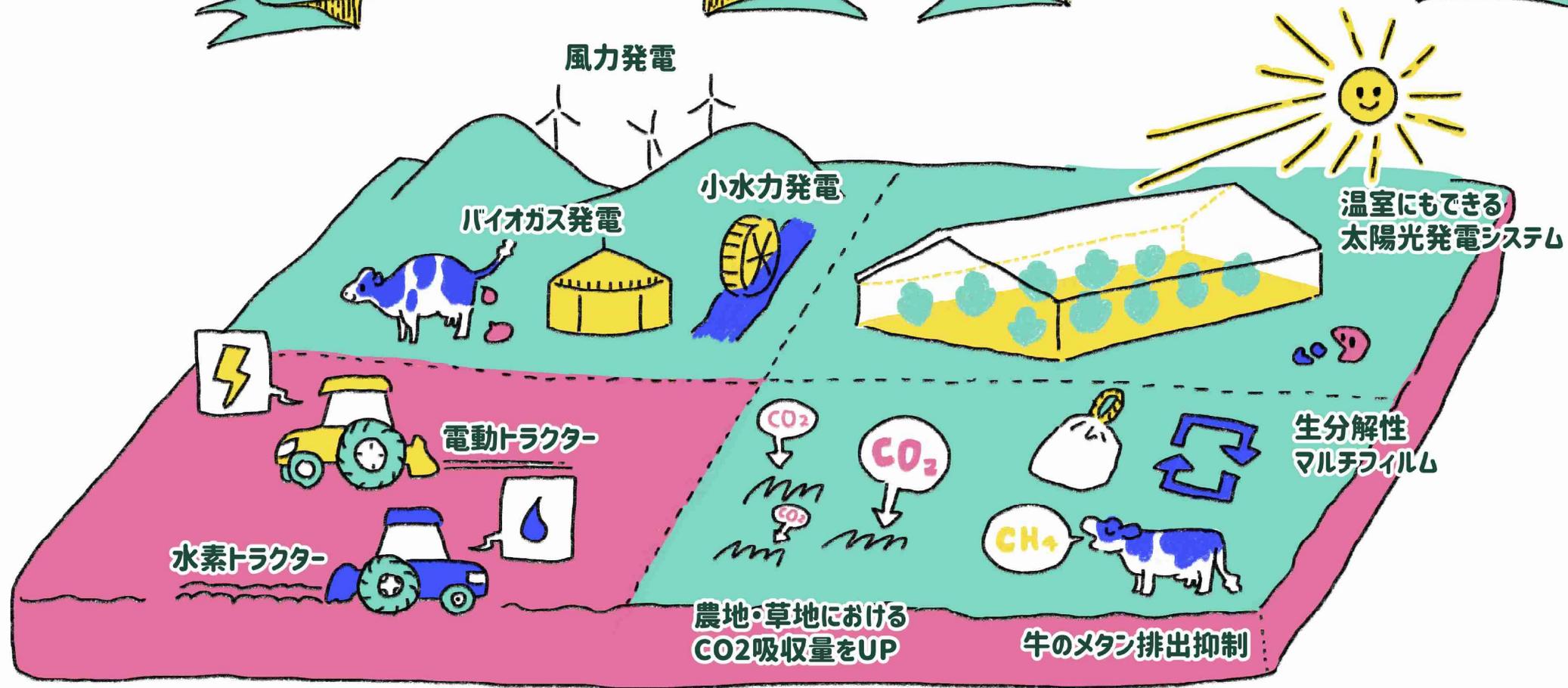
食品ロスの削減  
→本来食べられるのに  
すてられてるも！

2050年までに

# めざす 温室効果ガス削減の目標

農村の再生可能エネルギー導入

化石燃料を使わない園芸施設



農業機械の電化・水素化

CO<sub>2</sub>ゼロエミッション化

# 化学農薬の使用量50%低減

(リスク換算)



ピンポイント  
農薬散布

低リスク  
農薬開発

病害虫に強い  
品種の開発

輸入原料や化石燃料が原料の

# 化学肥料の使用量30%低減



AI土壌診断

耕畜連携

土壌微生物の機能解明



たい肥による土づくり

緑肥による  
土づくり

オーガニック市場  
の拡大

2050年までに

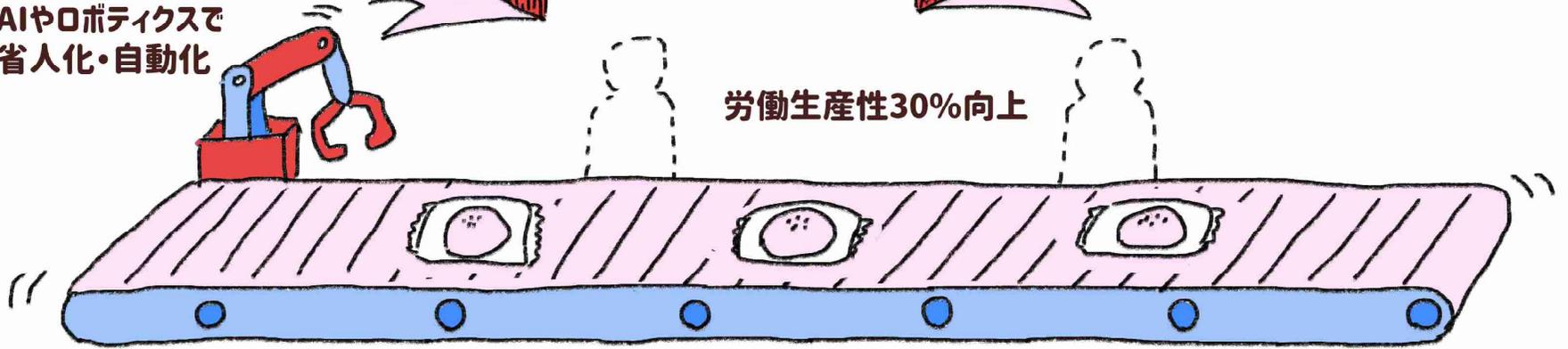
有機農業の取組面積を100万haに

# めざす 環境保全の目標

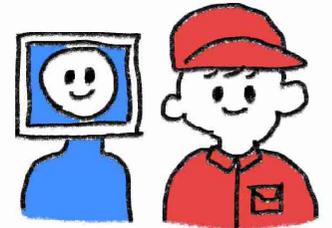
# 食品製造業の自動化

AIやロボティクスで  
省人化・自動化

労働生産性30%向上

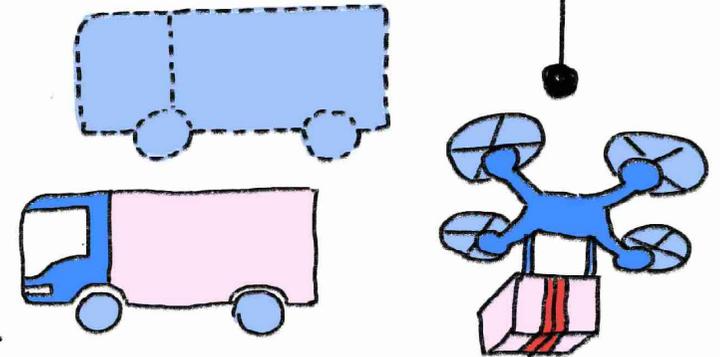


省人化



AIによる  
需要予測

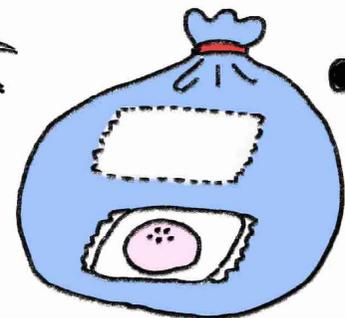
燃料費削減



ドローン  
配達

持続可能性に配慮した輸入原材料の調達

包装資材開発



食品ロス50%減

2050年までに

# めざす 食品産業の目標

流通の合理化

# 私たちにできることは？

環境に配慮して生産された食品を選んでみよう！

農業の持続的な発展のためには、**自然循環の維持**を図ることが重要です。

有機農産物は、化学肥料・農薬を使用せず**環境負荷をできる限り低減**させて生産されています。

食品ロスを減らそう！

日本の食品ロスの**約半分**が家庭から発生しています。

水分の多い食品は、廃棄の際に運搬や焼却で余分なCO2が排出されます。

食品の廃棄は、**食料生産に用いた多量のエネルギー**も一緒に廃棄しているのです。

地産地消に  
取り組んでみよう！

地域の農林水産物を選ぶことは、地域の伝統的な**食文化継承**や、**食料自給率の向上**に繋がります。